

こんにちは婦人会「さくら」です

暦の上ではすでに立冬・小雪も過ぎました。赤や黄色の落ち葉が北風に舞う季節になりましたが、山茶花梅雨と言われるこの頃の天気や気温はまるでジェットコースターのようです。今日は雨が降りとても肌寒く、「一雨一度」という言葉がありますが、冬が近づいてきていることを感じます。編集人は、そろそろ暖房が欲しくなりひざ掛け毛布を使い始めました。暖かくぬくぬく気分を味わっています。

～婦人会・暮らしのエッセンス～

某新聞で「軒下連なる柿のカーテン」の記事を見つけた。干し柿は全国いろいろありますが、今月は岐阜・山県市伊自良地区のお話です。



「飛騨・美濃伝統野菜」でもある伊自良大実という渋柿を使用して作られた干し柿（伊自良連柿）は、大正時代から続いており、1本の竹串に柿を3個通す手法は、“親・子・孫”3世代を願ったものと言われる。さらにその串1本の長いワラで縦に10列結び、計30個を1連とすることから連柿と呼ばれている。11月下旬、民家の軒下に吊るされた連柿は、まるで橙色のカーテンのよう。晩秋の風物詩として、誰もがカメラに収めたくなる光景だそうです。初冬の日差しと寒風に一か月さらされることで、餡色に変色し、甘味が凝縮され、迎春用の贈答品や縁起物として喜ばれているそうです。



(インターネット引用)

婦人会「さくら」
平成27年11月25日
第166号